

「イエスのリクルート」  
マタイによる福音書 4：18-25

イエスさまは「悔い改めよ。天の国は近づいた」と言って伝道を始められました。すると、すぐにイエスさまに従う人々が生まれる。これは不思議なことです。今日の後半にある大勢の群衆がイエスさまに従った出来事であれば、分からなくもありません。イエスさまの評判があちらこちらに伝わって、苦しみを持った多くの人々がイエスさまのもとに来て、癒され、従っていく者となった。そういうことはあり得るだろうと思います。

けれども、そのことに先立って、四人の漁師たちがイエスさまに従って弟子となった。これは不思議です。シモンとアンデレは湖で網を打っていました。ヤコブとヨハネは舟の中で網の手入れをしていました。彼らは自分たちの普段の仕事をしていたのです。イエスさまの話聞きに来ていたわけでもないし、病気や苦しみを癒されたわけでもありません。ところが、彼らは、イエスさまに「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」と語りかけられると、すぐにその仕事を捨て、父親もそこに残して従って行ったのです。どうしてこんなことが出来るのでしょうか。マタイは、四人の漁師たちがイエスさまに従って行った動機を私たちにわかるように説明しようとはしていません。

マタイがここで語っているのは、イエスさまが彼らに「わたしについて来なさい」と語りかけ、それに彼らが応えて従ったという事実のみです。しかし、このことは、23節以下の後半の出来事においても実は同じなのです。私たちは、四人の弟子たちが従った話と、大勢の群衆が従った話とを区別しがちです。なぜなら、群衆の話の方は動機がわかるからです。彼らがイエスさまに従って行ったのは、イエスさまに病気を癒してもらい、苦しみから救ってもらったからだと考えます。けれども、病気が癒されたり、奇跡を見たからといって、イエスさまを信じ、従って行くとは限らないことも聖書は伝えています。そういう意味では、25節に「大勢の群衆が来てイエスに従った」とあるのは、当然のことではないのです。

四人の漁師の場合、そのことを引き起こしたのは、「わたしについて来なさい」というイエスさまの語りかけでした。この群衆の場合は、イエスさまが「御国の福音を宣べ伝え」た、ということです。「天の国、神さまのご支配が今や実現しようとしている」、その喜ばしい知らせをイエスさまはガリラヤ中の諸会堂でお教えになったのです。いやしの御業は、この御国の福音に付随するもの、それを確証するものです。つまり彼らは、「御国の福音」を聞き、「天の国」を体験したのです。それによって彼らはイエスさまに従ったのです。

ここで大事なことは、イエスさまが御国の福音を宣べ伝えられる時には、私たち人間の応答が引き起こされるということです。

それは宣教の第一声からしてそうでした。「天の国は近づいた」という宣言には、「悔い改めよ」という求め、命令が結びついていました。悔い改めとは、心の向きを神さまの方に向き直すことです。それは、今まではこういう考え方、生き方をしてきたけれども、これからは別の考え方や生き方をしよう、ということではありません。私たちがいくら考え方や生

き方を変えたところで、「自分の」考え方や生き方というところでは何も変わっていないのです。それでは神さまの方に向き直ったことにはなりません。神さまの方に向き直るというのは、イエス・キリストの「わたしについて来なさい」という呼びかけに応えることです。この「わたしについて来なさい」という言葉は、直訳すると「来なさい、私の後ろに」となります。

私たちは、「誰の後についていくのか」そのことを問われています。本当についていくべき方は主イエス・キリストです。私たちに求められているのは、「自分」を見るのではなく、イエスさまを見つめ、イエスさまが先立ち導いてくださるその道を歩んで行くことです。

今日、私たちにもイエスさまは、「わたしについて来なさい」と呼びかけてくださっています。そのイエスさまの呼びかけに応じて私たちが従う時、そこに教会が生まれます。21 節に、ヤコブとヨハネに向かってイエスさまが「彼らをお呼びになった」とありますが、この「呼ぶ」という言葉は、「教会」という言葉のもとになっている言葉です。「教会」と訳されている言葉は「呼び集められた群れ」という意味です。

つまり、教会は、「わたしについて来なさい」とイエス・キリストに呼ばれて、それに応えて従った者たちの群れなのです。そしてその群れは、自分たちがイエスさまに従って行くだけでなく、他の人々にもイエスさまのこの呼びかけを伝える使命が与えられているのです。十字架から復活された主イエスは、弟子たちに最後にこう命令されました。「あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい」(28：19-20)。

教会が宣べ伝えていった福音、それは、イエス・キリストが私たちの罪を背負って十字架にかかって死んでくださったこと、その死によって神さまが私たちの罪を赦してくださったこと、そのことによって神さまの恵みのご支配が打ち立てられた、ということです。その福音が宣べ伝えられるところには、神さまご自身が聖霊によって働いてくださいます。人々の苦しみを癒し、慰めを与えてくださいます。だからこそ、私たちは悔い改めることが出来るのです。「わたしについて来なさい」というイエスさまの呼びかけがそこには響くのです。私たちも、今、新たにその呼びかけに応じてイエスさまに従う者となることを願います。